



サンポートホール 通信

2005・10・25

Vol. 8



「忠臣蔵・OL編」の一場面 撮影：青木 司

I N D E X

特集

巻頭インタビュー **平田オリザ**

こんな事やってるよ!! [事業報告]

[アウトリーチ活動]

[高松市市民文化祭アーツフェスタたかまつ情報]

ホール・ナビ [音響反響板]

さんぽーとCLUB(友の会)入会のご案内

サンポートホール高松施設利用のご案内

公募写真展 入賞者写真

平田オリザ氏に聞く

劇団青年団・四国初公演に寄せて

1990年代に日本の現代演劇に新しい衝撃を与えた劇団青年団。
画期的な演劇の考え方と創り方によって、数々の実績と栄誉を重ねてきた舞台が
いよいよ11月3日、サンポートホール高松に登場いたします。
初の四国公演を前に主宰者・平田オリザ氏に紙上インタビューをお願いしました。

ブラックユーモアに溢れた2作品

『ヤルタ会談』『忠臣蔵・OL編』の両作品は、歴史上のエポックな出来事を題材にされていますが、こうした題材を舞台化しようと思われた理由からお聞かせください。

平田 作家ですから、人間の話す言葉のすべてに興味があります。歴史に残る重要な会議で、どんなおしゃべりが行われていたかを想像することは、私にとってはとても楽しいことで、それをそのまま作品にしました。『ヤルタ会談』は、柳家花緑さんのための書き下ろし落語として、『忠臣蔵』は、宮城聡さん演出の野外劇の構成台本として書き下ろしたものを、小劇場用に作り直した作品です。

両作品の見どころを披露していただけますか。

平田 議題の深刻さと、当人たちの議論の進め方のギャップを楽しんでください。コメディです。しかし、見ているうちに、ああ、たしかに議論というのは、こういう風に適

当に進んでいくなあと感じていただけたと思います。

平田さんはこれまでの作品でもロビーや待合室、休憩所、船上デッキ、公園などの場面に俳優を登場させ、日常的な会話の中に民族の対立や戦争の惨禍、人間の断絶といったドキッとするようなテーマを潜ませてきましたが、今回の両作品ではどのように構成されているのでしょうか。

平田 今回は、両作品とも、会議がテーマになっています。『ヤルタ会談』では戦後処理を巡る三巨頭の会話をブラックユーモアでつづっています。『忠臣蔵・OL編』は、よくご存じの『忠臣蔵』をモチーフに、討ち入りに至る過程から、日本人の論理構造のようなものを描き出しています。ただし、『忠臣蔵・OL編』の方は、場面設定がOLさんたちの社員食堂での雑談風に演出されていて、そこが不条理な雰囲気を出しています。



「ヤルタ会談」の一場面
スターリン、ルーズベルト、チャーチルに扮した役者たちのコミカルな演技が繰り広げられる。
撮影：青木 司

地域から世界へ発信してほしい

平田さんは日本の現代演劇の中にあって、とても斬新な演劇創作理論を構築し実践されているわけですが、その一端を両作品の中から紹介していただけますか。

平田 皆さんが思われている演劇よりも、より口語に近いということだと思います。現実をそのまま描いているわけではありませんが、「芝居臭さ」のようなものは、あまり感じないのではないのでしょうか。ただ、この点だけは、見ていただかないとご理解いただけないかもしれません。まあ、ものは試しに、一度見てみてください。

主宰されている青年団が拠点にしている東京・駒場のアゴラ劇場からは、実に多才な若い演劇人が次々と登場していますが、今の日本の演劇状況をどのようにご覧になっていますか。

平田 若い才能は、後から後から出てきます。劇場はそれをサポートする場であって、できるだけ豊かな演劇環境を整えてあげたいと願っています。日本の芸術文化状況はまだまだ厳しいですが、90年代の変化を受けて、それを前提とする新しい演劇人が育ち始めているような気がします。あとは、自分の創造環境にとどまらない、開かれた精神を持つことが大事だと思います。

アゴラ劇場の事業のひとつに全国各地の優れた地域演劇を上演する『サミット』が毎年2回開催されていますが、これからの地域演劇のあり方についてお聞かせください。

平田 東京を目標とせず、世界に発信していくことが大事だと思います。また逆に、プロ化することだけが成功ではありませんから、地域に根ざしたリージョナルシアターがもっと出てきてもいいのではないかと思います。そのためには地域の劇場の役割が大きいと思います。地域の劇場が核となって、その都市ごとに、足りないものをサポートしていく必要があるでしょう。

四国では初めての青年団公演となりますが、初上演にあたっての抱負をお聞かせください。

平田 関西公演、岡山公演などの際に、四国からも多くのお客様に来ていただいている、いつも心苦しく思っていました。高松での公演を本当に楽しみにしています。これを機会に、もっといろいろな作品を持ってこられればと思っています。

第2回サンポート演劇祭 ゲスト招聘公演 劇団青年団公演

「ヤルタ会談」+「忠臣蔵・OL編」



11月3日(木・祝) 開演13:00

サンポートホール高松・4F第1小ホール

全席自由 前売・当日一般 2,500円 会員 2,300円(税込)

演出の都合により、開場は開演の20分前、ロビー開場は開演の60分前。



Profile

劇作家・演出家・青年団主宰・こまばアゴラ劇場支配人。1962年東京生まれ。国際基督教大学教養学部卒。国際基督教大学在学中に結成した劇団「青年団」を率いて活動。新しい演出様式による「現代口語演劇理論」を確立する。95年第39回岸田國士戯曲賞受賞作『東京ノート』は、現在6カ国語に翻訳され、各国で上演されている。97年『月の岬』で第5回読売演劇大賞最優秀作品賞・優秀演出家賞受賞。2002年『上野動物園再々々襲撃』で第9回読売演劇大賞優秀作品賞受賞。03年日韓国民交流記念事業『その河をこえて、五月』(新国立劇場制作)で、第2回朝日舞台芸術賞グランプリを受賞。近年は公演やワークショップを通じてヨーロッパ・北米・アジア各国との交流も深まっている。02年度から採用された中学2年生の国語教科書「現代の国語」(三省堂)にワークショップの方法論が導入され、年間30万人以上の子供たちが教室で演劇を創るようになっていく。他にも障害者とのワークショップや駒場、桜美林大学の地元自治体やNPOと連携した演劇教育プログラムの開発など、多角的な演劇教育活動を展開している。現在、桜美林大学総合文化学部教授、大阪大学コミュニケーション・デザインセンター客員教授、富士見市民文化会館キラリ ふじみ芸術監督、(財)地域創造理事、(財)舞台芸術財団演劇人会議評議員、日本演劇学会理事、文化庁日韓文化交流芸術アドバイザー、三省堂小学校国語教科書編集委員。著書に『演劇のことは』(岩波書店)、『演劇入門』『演技と演出』(以上講談社新書)、『芸術立国論』(集英社新書)、『話言葉の日本語』(共著、小学館)など。

こんな事やってるよ!! ~ 事業報告 ~

(財)高松市文化芸術財団では4月～8月までの5ヶ月間様々な活動を行なってきました。
ホールを使っての事業はもちろんのこと、アウトリーチにも力を入れています。

桜吹雪に心浮き立つ春。王莉さんによる、中国古箏(こそう)の演奏会が開かれました。

古箏とは中国で生まれた伝統的な楽器で、日本の琴のルーツにもなっています。初期の頃は5弦だったともいわれていますが、最近では、弦の数がどんどん増えています。現に王莉さんのものも、約30本の弦が張られています。

「古きよきもの」「気が付けばどこか懐かしい」。よく使われる言葉ではありますが、紡ぎ出される音色には、広大な中国に咲き乱れる美しい花々をホール内に想起させるような力がありました。

また古箏の幅広さを感じさせるモダンな曲もあり、第一人者ならではの多彩なプログラムでした。

何より、演奏している時、王莉さんから自然にこぼれ出る笑みには、古箏への愛情が満ち溢れていました。



～ 中国の古雅と悠久の詩情～

王莉

中国古箏演奏会

2005年4月9日(土)

第1小ホール

個性派女優・渡辺えり子さんの人気は、高松公演でも実証されました。舞台に登場しただけで「私が主役よ」と観客を納得させてしまう存在感、少しハスキーですがよく響く迫力のある声。スリラーの名手スティーヴン・キングの描く恐怖を見事に演じてくれました。渡辺さんは精神を患った元看護婦のアニー役を好演。文学座の新進気鋭の演出家・松本祐子氏による抑制の効いた演出がより一層不気味さを際立たせ、小日向文世さん演じる人気小説家ポールを蛇に睨まれた蛙のような恐怖に陥れたのでした。

舞台効果も出色でした。とりわけ、洋館の舞台美術では定評があり、いま最も話題作の多い松井のみ氏が、ポールを閉じ込めてしまう寝室、それに通じる廊下、ロビー、収納庫などを絶妙な距離感で結びつけ、スリリングな効果を引き出すことに成功していました。いつの間にか大きなステージが、恐怖の館へと一変していたのでした。



～ モダンホラーの帝王
スティーヴン・キングの
最高傑作を舞台化～

ミザリー

アニー役：渡辺えり子

ポール役：小日向文世

2005年6月23日(木)

大ホール

～ 思いを声で伝えよう～

第2回

詩のボクシング in香川大会

予選：2005年7月2日(土)

本選：2005年7月24日(日)

香川には讃岐うどんがあります。そういう名物となる香川の声を作り出すのが、「詩のボクシング」の役割でもあります。

第1回チャンピオンの“かたつむり”

は、讃岐うどんのうどん粉をこねたようなボリューム感が声にある事を教え、第2回チャンピオンの“こうっし～”は、讃岐うどんのつるつるとした美しい食感が声にある事を教えてくれました。さらに、第3回チャンピオンの“中ちゃん”は、讃岐うどんの微妙なゆで加減を心得た年季の入った朗読がある事を教えてくれました。

これで讃岐声のメインの準備ができました。では、次に必要なものは何か。そう、讃岐うどんの命ともいえる“だし”の味です。つまり、これぞその味という声の持ち主が現れば、讃岐声の土台は完成です。後は毎年、イカ下足、竹輪等の天ぷらをトッピングしつつ讃岐声を皆で楽しむばかり。“だし”となる声を待っています。

(日本朗読ボクシング協会代表 楠かつのりさんより)



～ ハートを唄でぶんなぐれ～

泉谷しげる

アコースティック ライブ

2005年8月26日(金)

大ホール



夏の高松は毎年のように湯水の心配に見舞われます。今年も同様でした。新聞、テレビ、ラジオ、どのマスコミも毎日「早浦ダムの貯水量の危機」を

取り上げ、いよいよ「夜間断水?!」と思いきや、台風の接近予想。「ライブは?」「交通機関の運行は?」付随して当然の様に次々と起こる心配事をクリアしながらの開場でした。

1971年以来、30年以上にも渡り吠え続ける“リアル・フォーク・アーティスト”である泉谷さん。泉谷さんのライブのため、遠方からははるばる来られた熱狂的なファンを含め多くのファンを、その無限の魅力で惹きつけ、泉谷さん独特のスタンディングオベーションを引き起こし、夏の夜に相応しい汗を共有した一瞬でした。

最後に、泉谷さん(とファンの)いつものお楽しみを、ここ、サンポートホール高松でもやってくれました。“プチプチプチ”。6本の弦を手ですべて引きちぎり、「お前ら、これでもう弾けないぞ。」おしまい。

～アウトリーチ活動～

「簡単に言えば芸術の出前です」

学校巡回

学校巡回芸術教室は市内小中学校の皆さんに本格的な芸術を体験してもらおうと、高松市教育委員会からの受託事業として毎年実施しております。本年度はオーケストラ演奏会や影絵人形劇、邦楽等7演目11公演を予定しております。

6月21日に一宮小学校で『邦楽』、前田小学校で『詩吟』を実施。

『詩吟』では臥風流吟詠会大森英風さん(写真中央)の朗々とした声が、和楽器の美しい旋律に乗って響きました。

詩吟というと、お堅く聞こえるかも知れませんが、普段は触れる機会の少ない琴や13弦を使った飽きのこない演出、子どもたちにも馴染みのある「ドラえもん」を題材にした詩と一緒に詠うなど、とても身近なものであると感じたようです。

『邦楽』では市芸術団体協議会メンバーが「春の海」「結婚行進曲」などを和楽器にピアノを織り交せた面白い編成で好演奏。

また児童が楽器に触れ、体験できる機会も設けました。初めての経験で、思うような音は出せなかったようですが、実際に和楽器に触れた生徒たちの笑顔が印象的でした。



デリバリーアーツ

デリバリーアーツ事業は鑑賞者の皆様のもとへ文化芸術を配達(デリバリー)することが大きな特徴で、高松市教育委員会からの受託事業として毎年実施しております。本年度はアンサンブル演奏会、寄席、パーカッション演奏会、読み語り、三味線演奏会の5演目11公演を予定しています。

7月17日は西植田町のドングリランドにて『夏の森の瀬戸フィル音楽会』を実施。

四国唯一のプロオーケストラ瀬戸フィルハーモニー交響楽団による、弦楽5重奏アンサンブル演奏会であり、支え合って一つのを創るエイブルアートの精神で、参加型の音楽会をデリバリーしました。

「カノン(パッヘルベル)」や「威風堂々(エルガー)」、「G線上のアリア(バッハ)」のような定番のクラシック音楽だけでなく、アニメやCMでお馴染みとなりました「さんぽ」「Summer」など一般的で親しみ深い音楽も披露。アンコール曲の「世界に一つだけの花」では、会場全体が手拍子に包まれ、思わず歌を口ずさむ方もいました。

子どもから大人までたくさんの人たちに、素晴らしい演奏を楽しんでいただきました。



高松市市民文化祭アーツフェスタたかまつ情報



サポートホール高松開館一周年記念

高松市市民文化祭 アーツフェスタ たかまつ2005

2005年6月11日(土)～7月3日(日)

サポートホール高松ほか

サポートホール高松市民参加事業運営委員会事務局として、今年のアーツフェスタを振り返ってみたいと思います。

ア あー、無事に終わって良かったです、本当に。今年の高松市市民文化祭アーツフェスタたかまつは、11年振りに高松砂漠の再来か...と香川県民の誰もが危惧し始めた頃、そして、ホール管理事務室裏の水道の蛇口から流れ出る水量が悲しいほど少なくなった頃、始まったのでした。

ツ ついこの間のこのように思い出されるけれど、開幕までには実に様々なことがありました。

フ 不安になることももちろんありました。今となっては思い出せないほどです。しかし、参加した事業はどれも面白いプレゼンテーションをクリアした企画ばかりでした。

工 演劇・オペラ・音楽・アート・邦楽・文芸・生活文化・民謡・民舞・新舞踊・パフォーマンス・茶華道と、様々なジャンルの20事業が、オープニング事業のオペラ公演を皮切りに、クロージング事業の新舞踊公演まで、サポートホール高松をメイン会場に華やかに繰り広げられました。

ス ステージまたは会場いっぱい、それぞれの団体の持ち味を十分出せていたと思います。(期間中の出品者または出演者数約2,300人 鑑賞者数約20,000人。ただし、9月に商店街で開催のため、ウィンドーディスプレイは含まない。)

タ 高松市市民文化祭アーツフェスタたかまつは、今年で32回を迎え、年々レベルアップし、市民文化祭としての拡がりが見られるようになってきています。市民の間にも初夏の風物詩として(?)定着してきています。今年から、観客の皆さんと共により良い市民文化祭にしていこうと、新たにレポーター制度を採用しました。

た 高松市は9月に新しく仲間入りした塩江町に続き、平成18年1月10日には周辺5町が合併し、新しい高松市として誕生します。市民文化祭アーツフェスタたかまつも、この大合併でさらにパワーアップして盛り上がることを期待します。

か 限らない可能性を秘めたアーツフェスタ。既に2006年の開催に向けて動き始めています。次のタイトルは、「新高松市誕生記念高松市市民文化祭アーツフェスタたかまつ2006」です。11月12日(土)には公開プレゼンテーションが開催されます。また、参加事業の企画はまだ募集中です。(詳細は文章の最後にあります。)

ま まだまだ発展途上のアーツフェスタですが、運営委員会事務局も陰ながらがんばっています。今年は客席で楽しんだという人も、もしかしたら来年はスポットライトを浴びる側になるかもしれません。または、スタッフとして“緑の下の力持ち”的存在になっているかも...。

つ つまり、アーツフェスタは市民のみならずの誰もが参加できる芸術文化のお祭りなのです。高松市市民文化祭アーツフェスタたかまつの今後の動向に乞うご期待です!

最後になりましたが、今年のアーツフェスタを支えてくださった参加団体・マスコミ各社・開催施設関係者の皆さまに厚くお礼を申しあげます。ありがとうございました。そして来年もよろしくお願いたします。

来年のアーツフェスタ情報

「新高松市誕生記念高松市市民文化祭アーツフェスタたかまつ2006」

開催期間/主催事業：平成18年6月3日(土)～6月25日(日)

参加事業：平成18年6月3日(土)～8月31日(木)

主催事業の募集は締め切りました。

参加事業の企画募集締切り：平成17年12月2日(金)

開催場所/サポートホール高松ほか

主催事業の公開プレゼンテーション

日 時/平成17年11月12日(土) 午前9:30～

場 所/サポートホール高松 6F 62会議室

問合せ先 サポートホール高松市民参加事業運営委員会事務局

(〒760-0019 高松市サポート2-1 サポートホール高松2階管理事務室内)

TEL.087-825-5010 FAX.087-825-5040



舞台は「百面相」!? ~ 音響反響板編 ~

Vol.6にて、ホールのそれぞれ異なった特色をもった客席についてご説明申し上げましたが、今回からは舞台側の百面相的变化についてご紹介していきたいと思います。

以前にも申し上げました通り、舞台という空間は様々な演出を様々な形態で実現する事を可能とする、一種四次元で構成された闇のようなキャンバスです。ですから、この真っ暗闇なキャンバスにどんな絵の具でどんな絵を描くのかは利用者の皆様次第!!時として誤ったり、裏切られたりする事もしばしば... 舞台という百面相に嘲笑われる事の無き様、お楽しみ下さい。

Q 反響板って?

A 一言で言えば、舞台上で発生する生の音をそのまま客席に反射させる壁です。
オーケストラやピアノのリサイタルなどクラシックイベントには不可欠な設備であり、マイクなどを使って收音し、増幅させてスピーカーから再生するPA (Public address) を使用せずに楽器の発生する生の音をそのままに観客に伝えるための設備です。
壁の構成としては、天井部の天井反射板、舞台両サイドの側面反射板、舞台背面の正面反射板といった客席面以外の三方からなり、舞台上の音を漏れなく客席ゾーンへ反射させます。

この反響板を効果的に利用するためには、楽器のように発する音自体に強さ、多彩な音色、高低を持つことが可能である事、もしくは声楽においてもしっかりとした声量を持っている事、それぞれにバランスを持った位置関係にある事が条件であり、オーケストラの楽器の配置なども楽器本来の音の特質を生かすためにバランスを取った結果なのです。フルートなどは客席に近く、トランペットなどは舞台奥に配置されているのは見た目の問題では無いのです。全体的な音のバランスを考えられた結果なのです。ですから当然、オーケストラをバックに歌を歌う場合はマイクを必要としますし、通常の会話程度の声量では流石の音響反響板でも客席全体に響かせることは不可能なのです。

余談ですが、当ホールのご利用案内の中に記載されました設備使用料の項目に、『反響板』と『天井反射板ライト』があります。これらに関しまして、一般的にイベントに常時利用されるものでないため、良く「舞台の何処にある設備?」「これを借りればマイクは借りなくて良いの?」「天井反射板ライトって間接照明が何かの設備?客席の電気の事?」といった質問を受ける事が有ります。また、当ホールパンフレットの第一小ホールの舞台写真等は、この反響板を設置した状態での画像であるがために「第一小ホールは、常時こんな舞台なのだ!」と思いつままれてしまっている事も多く、見学の際に「写真と違う!」という言葉に我々舞台技術スタッフは、時に汗を拭き拭き、「思い込んだら試練の道を行くが男のド根性!」回回道答弁を強いられる事が開館当時は少なくありませんでした。

Q 音を選ぶ? 見た目を重視?

A 音響反響板を使うと、通常だと使える緞帳幕も使用不可能。反射板自体が白くないために色照明によるライトアップは不可能。囲まれた空間で有るが故に天井からの装飾や光りの演出も不可能。三方塞がれ演出家は八方塞がり。

天井反射板ライトとは、その天井部の反射板に埋め込まれたダウンライトで、反射板内部を斑無く明るくライティングする唯一の照明機構なのです。

利用者の方の中には、「どうしても色照明による演出を施したいので天井反射板ライトの白い照明は消灯したまま、客席側からの照明機構によって舞台に色を付けられないのか!?!」という質問が必ず有ります。

しかしながら、その結果は...!?

上からの照明が無いために、演奏者の手元(譜面等)は真っ暗!客席からの舞台上の出演者は、順光のみの状態で素人の写真のように平面的な画像!赤い照明の時は全ての出演者の顔も舞台も真っ赤!緑の照明の時は全てが真緑!青い照明の時も然り!まさに違う意味で百面相!?

オープンしてからの一年間、皆様からのこれらの要望に際し、結果として背面の正面反射板を撤去して(看板等の設営がない場合限定)ホリゾン幕を背景にセットし、そのホリゾン幕への演出で再現して参りましたが、音響反射板としては背後の反射を失う事になり演奏会としての趣旨からは大きく外れてしまう事になります。音を選ぶのか、見た目を重視するのか?両立することの難しい現実に悩まれた主催者の方も多かった事でしょう。

Q 最後にサンポートホール舞台技術員から 反響板に関して一言注意点!?

A 先に記しましたように、音響反響板とは大きな壁です。通常は舞台に平行な角度で舞台上部に収納しております。設営時には、その大きな壁が舞台面まで降下してきて角度を変え、舞台上に新たな空間を構成致します。大ホールでは40分程度、第一小ホールでは30分程度の時間を要します。従って、舞台上は全く何も設置出来ない状態になります。

具体的な事例で言いますと、反響板の設営時にピアノの設置、調律は出来ないという事です。



天井反射板(裏面)、通常、垂直な状態で格納されています。



しっかり鎖で繋いで



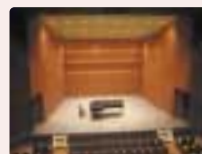
角度を調整します



側面反射板が1枚ずつ



降りて来て



最後に正面反射板が降りて、出来上がり!

さんぽーとCLUB(友の会) 入会のご案内

「さんぽーとCLUB」はサンポートホール高松友の会の名称です。
1年中いつでも入会できます。入会要領は下記の通りです。

会員期間 / 1年間 会費 / 年会費2,000円

特典

- 財団が発行する情報誌や、催し物案内等を定期的にお届けします。
- 財団が指定する公演のチケットを、一般発売に先立ち優先的に予約または購入できます。
- 財団が指定する公演のチケットを、原則5%の割引価格で購入できます。
(ただし、サンポートホール高松コミュニケーションプラザでのご購入に限ります。)
- 財団の主催事業で出演されたアーティストの記念品等を抽選でプレゼントします。
- 先行発売期間中に購入できる枚数は、1公演につき会員お1人様5枚まで。ただし、会員価格で購入できるのは、会員お1人様2枚までとします。

入会の手続き

ご来館によるお申込み

入会申込書に必要な事項を記入のうえ、年会費を添えて、1階コミュニケーションプラザにお申込みください。

現金書留によるお申し込み

入会申込書に必要な事項を記入のうえ、年会費を添えて、サンポートホール高松友の会事務局に現金書留で郵送してください。

会員期間について

会員期間の有効期限は、入会日から1年を経過した日の属する前月の末日までです。
以後会員期間を更新するときは、翌月の初日から1年間とします。



ご意見をお待ちしています!

この情報誌に関するご意見やご感想、また今後の掲載(取材)希望などがあればお寄せ下さい。

宛先 / 〒760-0019

香川県高松市サンポート2番1号
サンポートホール高松
「サンポートホール通信編集担当」迄

お手紙・はがき・FAX (087-825-5040)・
メール (jigyo@sunport-hall.jp) でお願
いします。

さんぽーとCLUB(友の会) 会員の皆様へ更新のお知らせ

更新時期が近づいている会員様には、更新日の約1ヶ月前に更新手順のお知らせをします。よろしくお願いたします。
今後も、ホールでの楽しい催物・公演情報の送付や、会員様特典の提供に努めて参ります。ご期待ください。

サンポートホール高松 施設利用のご案内

申込方法

窓口にて、使用許可申請書に必要な事項を記入してください。

会議室、和室、リハーサル室、練習室はタカマツ・シティ・ネット(インターネット)より仮予約ができます。(ホールは不可)

<http://www.manabi.city.takamatsu.kagawa.jp/>

ただし、システムのご利用については、事前に利用者登録が必要です。また、仮予約から10日以内に窓口での正式予約手続きが必要になります。

施設利用のご相談 / 9:00 ~ 18:30 施設使用料のお支払・登録等 / 9:00 ~ 17:00

申込受付期間

使用日の1年前の月の初日から、使用日の前日まで。

ただし、全国大会、中四国大会規模以上のコンベンション(国際会議関連も含む)、国または地方公共団体が主催する事業などの場合、使用日の2年前の月の初日から受け付けします。
申請者の優先順位は原則として先着順です。ただし受付開始日(毎月1日)については、抽選により申請の順位を決定する場合があります。

詳しくは「ご利用案内」や財団ホームページ(<http://www.sunport-hall.jp/>)をご覧ください。


プレイガイド

サンポートホール高松・主催事業 チケットのお求め

サンポートホール高松1Fコミュニケーションプラザ
087-825-5008

チケットぴあ <http://t.pia.co.jp>

四国内のJR四国

主要駅のみどりの窓口・ワープ 各駅 

ゆめタウン高松サービスカウンター	087-869-7500
高松三越7F友の会	087-825-0768
ヤマハ高松店	087-822-3608
タマルレコード本店	087-861-2400
デュークショップ高松	087-833-5450
香川県庁生協	087-832-3822
高松市役所生協	087-839-2043
ミヨシ楽器店	0877-25-1234
秋山楽器店	0877-46-8066
オオサカミュージックセンター	0875-25-2201

サンポートホール高松コミュニケーションプラザ以外は事業ごとに異なります。

お問い合わせ先

高松市文化芸術財団

〒760-0019

香川県高松市サンポート2番1号

TEL 087・825・5000(代)

FAX 087・825・5040

<http://www.sunport-hall.jp/>

サンポートホール高松



サンポートホール高松



サンポートホール高松が見える風景

公募写真展・優秀作品

「サンポートホール高松が見える風景」春夏編というテーマで、平成17年5月1日から8月31日まで写真の募集をしたところ、約100点の応募がありました。その上位3名の作品です。



最優秀賞

『城下町に咲く華』
三木 晶一 様



優秀賞

『よいしょー』
香川 省三 様



優秀賞

『夜明け前』
中城 進 様